

年末市長訓示

平成29年12月28日（木）午後1時

本庁舎8階 大会議室A

平成29年の仕事納めにあたり、本年の締めくくりとして、職員の皆さんにお話しします。

年始の仕事始め式において、今年は、合併によって誕生した新しい津市がいよいよ独り立ちをする「自立の年」になる、あるいはそうしていこうと申し上げました。これまで歩んできた合併後のまちづくりを礎にして、未来に向けてしっかりと今やるべきことを着実に進めていこうと。そして、そういうまちづくりを進めるためにさらに一步踏み出そうと。それと同時に、合併による国からの財政支援措置が段階的に縮減され、合併後の特別な状態が終わりつつあるということをしつかりと認識しながら、堅実な財政運営も図っていかなければならない、そういうことを心に留めながら進めてきた1年であったと思います。

私自身の今年は、東海市長会、三重県市長会の会長として、慌ただしい日々を過ごしてきました。それぞれの立場で言うべきことをしっかりと申し上げる、それが基礎自治体の本来の務めであり、国や県との関係で言えば、津市の発信力をさらに高めようと努めてきました。

そのようななかで、今年1番の大きな出来事と言えば、津市・産業スポーツセンターのオープンです。3回の入札不調を乗り越えて、ようやく着

工に漕ぎつけ、無事オープンの日を迎えた、いわば難産だったわけですが、オープンから2カ月で71,605人もの方にご来場いただくなど、華々しいスタートを切ることができました。

先日、久居の工業団地にある工場の工場長の方が年末のご挨拶にお越しになりました。その方がおっしゃるには、社内でスポーツに対する熱が高まっているそうで、工場からサオリーナが近いので「行ってみよう」という方がいらっしゃって、朝礼で「終業後にサオリーナで体を動かしてきた」という話をしたところ、「じゃあ私も行ってみようかな」という声がどんどん広がって、社内で「サオリーナを使ってみよう」、「サオリーナで体を動かしてみよう」ということになっているということでした。

本当は体を動かしたかった、あるいはどこかでスポーツをやりたいけれども機会がなかった人の背中をぽんと押すようなことが起こっていて、これはまさに私たちが目指していたことです。7万人というお客様の中に個人利用の方が半分近くいらっしゃいます。そういう方々が繰り返しお越しただいて体を動かしていただくということが、スポーツの振興、ひいては健康づくりに繋がっていくと思います。もちろん、大きな大会を誘致し続ける、地域経済に効果のあるイベントをしていくことを目指していきますが、それ以上に重要なことは、大切な市民の税金でつくった大きな館^{やかた}ですから、市民の皆さんに存分に使っていただくということがサオリーナの使命であろうと思います。

この津市産業・スポーツセンターの完成をもって、合併時に約束されていた事業がほぼ見通しがついてきた、いわば1つの時代が区切りを迎えた年であったと思います。

しかしながら、振り返ってみれば、合併時に決めたことをやっていく以上のことをいろんな面でしっかりとやり遂げた年であったと思います。

3つくらいの範疇に分けて申し上げると、一つは合併の時はそこまで明らかではなかったけれども、合併後の津市、特に前葉市政になってから「やるぞ」と決めて、それを結果に結びつけたもの、それからもう一つは、志を高くして、目標を高く持ってやろうと決めて大変苦労があったけれども実現してきたもの、三つ目として、新しい市政の方向性を先駆けて踏み出したものがあったと思います。

最初に、津市として「やるぞ」と表明し、ここ数年でそれを着々と進めてきた結果、今年形になったものです。

一つは、津市応急クリニックです。これは、保健センターの一室を間借りして津市夜間成人応急診療所を運営してきた状態が必ずしも最終の姿ではないと分かっていたながら、なかなかもう一步踏み出して形を作ろうというところまで至らなかったものですが、完成させました。実際に夜間の受診者数は開設から11月末までに1,679人となり、これは旧診療所での同じ時期の受診者数が1,337人でしたから、約1.3倍になっ

ています。目立たないところから目立つところに来たということで、何かあったらあそこに行けばいいんだと市民の皆さんに浸透してきたということもありますが、夜間でも煌々と明かりが灯り、ここにすればお医者さんがいらっしゃるんだということで、この1.3倍という数字以上に市民の皆さんへ安心感をお届けできていると感じます。年末年始になると余計にそのように感じるもので、思い起こしてみれば私も今年1月2日に風邪をひき、休日診療医へバスで行きました。年末年始の昼間も夜も、この応急クリニックで診ていただけるという体制ができたことはより安心していただけるのではないかなと思います。

津市ビジネスサポートセンターもあのつ台にオープンしました。創業支援であるとか企業の新分野への進出支援などについて、これまでも産業振興センターでやってきたわけですが、より相談者の立場に立ってサポートする体制ができました。創業の支援ということでいえば、相談の数としては急に増えているわけではありませんが、実際に私たちが相談を受けて創業した件数は約3倍となりました。また、新しい分野への進出支援に関しても、これまで工業系、つまりものづくりの分野だけを対象にしていたものを、他の分野にも拡充し、新たに園芸植物の栽培を行う事業者へ支援したことで新商品の開発に繋がりました。より見える形で窓口を開いたことによって、さらに利用しやすい体制を整えることができました。

県内初の義務教育学校となる「みさとの丘学園」も開校しました。小中一貫教育を行う方向性については、早い段階で決まっていたましたが、9年間の義務教育学校にしていこうというのは、平成24年、25年頃に大きな方向性が出てきていた話ですので、英語教育や美里創造学習の展開なども、津市が「やるぞ」と表明して実現してきたものであり、全中学校の普通教室へのエアコン設置も同様です。

コミュニティバスの無料化もやろうとして実現したことです。無料化実施後の10月の利用者数は9,352人で、昨年と同じ月の利用者数8,315人と比較すると、12.5%も利用者数がアップしており、これからもっと増えてくるのではないかということで、コミュニティバスが特に高齢者の方に身近に使っていただきやすいものになりつつあると思っています。

(仮称)津市久居ホールについても、用地を購入しようということは2、3年前に決めて、事業認定を取ったということは合併後の津市が独自に決めたことです。

三重県の事業ですが、北部地域の海岸堤防については、上野地区からつくっていこうということで、三重県に決めていただきました。南の方の直轄工事が進んでくる中、河芸・白塚以北をどうしていこうかということ、地域の方々としっかりと話をして実現してきたものです。鈴木三重県知事に大きな判断をいただいたと感謝するものです。

以上のように、津市として明快にやるぞということで、容易なことではなかったと思いますが、しっかりと形になったことは、それぞれの分野の職員のみなさんの努力によるところであると思います。

さて、二番目の範疇ですが、もう一歩先へ、志高く県都津市にふさわしい、あるべき姿をさらに追求して実現したものもあります。

一つは、4月に美杉町奥津に開設した津市家庭医療クリニックです。美杉地域における地域医療については、無医地区や民間の医療機関の閉院などいろいろな状況がありましたが、地域医療の確保に向けて津市としてやるべきことをやっていこうと判断し、開設したということです。4月から11月末までの受診者数は2,175人でした。当初見込んでいた年間の受診者数は、2,300人でしたので、既に目標を達成しつつあります。

団地の共同汚水処理施設を津市が引き受ける事業もスタートしました。特にこの事業については、他の自治体からも多く問い合わせをいただいているようです。既に殿舟団地とピュアタウンの汚水処理施設が移管されました。公共下水道と同等の市民サービスを提供したいということでスタートした事業で、団地の共同汚水処理施設を津市が引き受けようとしたときは、下水道料金でいこうという大きな決断をしました。本来、全域に公共下水道が整備できればいいのですが、時間がかかりそうだとい

うなかで、個人のご負担は、下水道使用料と同じにしようとする非常に大きな決断でした。津市のような規模の都市でここまで判断したところはないような状況から、問い合わせをいただいているということです。市民の皆さんに共通のサービスを提供していこうという志により、いわば公共下水道があるのと同様な状態にして供給していこうと行ったことです。

ボートレース事業では、4月1日に地方公営企業法の財務適用を開始しました。公営企業会計を導入したことによって、透明性が確保されたなかで、経営基盤の強化や財政マネジメントの向上に向けた取組ができるようになりました。例えば、昨年から始めた一般会計への繰出しについては、一般会計と競艇事業会計との綱引きのような形で行われていましたが、公営企業会計になれば、ボートレース事業会計は、今年の剰余金の中で、この部分は将来の投資に回します、自らの会計の中で施設整備の基金を積んで会計に回します、加えて、それ以外の部分では、これだけ市民のために貢献しますということが透明性のある形で実現していきます。企業経営の財務会計を適用したことにより、一步高いレベルに進んだというものです。

シルバーエミカも全国初めての事例で、高齢者の健康づくり、生きがいづくり、外出しようとする事への支援です。以前から実現できればと考え、手段についていろいろ議論があったなかで、10月からスタートして2ヶ月で4,170名の方がシルバーエミカをお持ちになり、いまでも本

庁舎 7 階に設けた窓口にシルバーエミカの取得を希望されている方がお見えになっている状況です。これも、一つ先の段階まで行けたというものです。

津市空き家情報バンク制度の拡充も行いました。これは美杉地域で実施してきたものを今後どうするかといろいろ議論がありましたが、空き家政策、空き地政策を進めるなか、思い切ってやってみようということで実施したものです。美杉地域以外での新規登録が 11 件となり、そのなかで一志地域の空き家についてはご成約までに至りました。

今申し上げたようなことは、やや高い目標を掲げてやろうとして、できてきたものです。多少時間がかかったもの、また当初から少し形を変えたものもありますが、手探りのところがあったなか、目標に向かって形にしていこうといういわば職員の皆さんの粘り腰で実現できたものです。

三番目ですが、新しい時代に向けての序章となったものがいくつかあったかと思います。

1 つは、学校施設の修繕に対する特別な小規模修繕予算 1,500 万円を確保したことです。

毎年の修繕予算約 1 億 7 千万円に対する 1,500 万円の予算がどういう効果をもたらしたかという一例を挙げますと、地域の方々の何十年来の懸案であった大里小学校の運動場の排水問題がありました。今まで私

たちは、他にも同じような状態の箇所はありますし、運動場の水はけを良くする前にしなければならないことが沢山ありますので、我慢してくださいと言ってきました。今年、工事を行った結果、技術革新によるところもありますが、長年の懸案であった水はけが劇的に改善し、明け方5時までの降雨にもかかわらず、運動会を支障なく実施できました。一步踏み出した結果、それほど大きな予算を伴ったわけではありませんが、現状を大きく変える事ができたわけです。

また、これまで4月の入学後に支給していた「新入学用品費」を、入学前の3月に「新入学用品準備金」として支給するようにしました。3月末に引っ越したらどうするかなど色々な議論がありましたが、新入学前にお金がある、それを支援するための制度という基本に立ち返った結果、新しい仕組みをつくることができました。

とても難しかった事例がさつき保育園の閉園でした。この案件は、突然のことで、なおかつ市役所に非があるわけではなく、これまで迅速な対応が難しかった類のものです。今回は、1月、2月、3月と健康福祉部が非常に頑張ってくれて、丁寧に丁寧に対応し、教育委員会も幼稚園での受け入れについて配慮し、何よりも地域の社会福祉法人の皆さんが子ども達の受け入れを英断していただいたことで、結果として57人全ての子ども達の受け入れ先が決まりました。このように、ある意味ピンチをチャンスに変えた今回の件は、これまで私が地域の皆様に寄り添って仕事をし

ようと言いつけ、そのような気持ちで仕事を行ってくれたことが大きな力を発揮したと感じた事例でした。

出張所の所長に再任用職員を充てたことも、地域住民に頼られる存在にしようとしたに行った人事です。地域懇談会では、地域の方から「今までより、所長と気軽にいろいろな話ができるようになった」という声もいただきました。これも新しい時代において、地域住民の立場に立って仕事をするという職員が、この組織の中にどんどん増えていくようにと、一歩踏み出すことができたと思っています。

消防団の詰所については、従前から設備を整えていますので、詰所までは我慢してくださいとお願いしてきました。しかし、公共施設の有効活用という視点で考え、詰所として使えるスペースがないか検討し、第1号として美里庁舎内に整備しました。これは、消防団は消防本部が考えればいいという縦割りの考え方のままでは実現できなかったことだと考えています。

ここまで、いくつかの案件は、まだ確信ではありませんが、合併後の津市役所という組織が新しい方向性に向けて歩き出したことを感じさせる事例でした。

以上、今年1年皆さんが取り組んでいただいたことを3つのカテゴリーに分けて話しましたが、これが実を結んだのは、皆さんが市民のために

何ができるかということをしつかりと考え、実現しようと頑張り、取り組んでくれたお蔭だと感謝しています。

まさに、4月からは、新しい総合計画と都市マスタープランがスタートします。総合計画に掲げた将来像「笑顔があふれ幸せに暮らせる県都津市～夢や希望、明るい未来が広がるまちへ～」の、この将来像の実現に向けて、力強く、これからも歩みを進めていきましょう。

最後になりますが、年末年始にかけて一年間、頑張っていたご自身を^{いたわ}り、心身をゆっくりと休めてください。年末年始の休暇期間中にもかかわらず、職務に従事をしていただく職員の皆さんは誠にご苦労さまですが、健康には十分気を付けていただきますようよろしくお願いいたします。

仕事納めの挨拶において、今年はこんなにも色々なことを実現できたと言いうことができました。年末年始にかけて、来年の構想を考えてまいりますので、年始には、また新しいことをお願いしていきます。どうぞ1月4日まで、ゆっくりと心身を休めてください。

職員の皆さん、そして、ご家族にとって、来年が本年にも増してより良い年となりますことをお祈りいたします。

一年間、本当に、ありがとうございました。